

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 14079

建築物名称	(仮称)AVL新川崎テクニカルセンター
建築主	エイヴィエルジャパン株式会社 代表取締役社長 岡田 尚己
建築物の所在地	川崎市幸区新川崎149番17、18
設計者氏名、建築士事務所名	上原 秀晃 株式会社ディーシービー 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	2,512.71m ²
用途	研究所
構造	鉄骨造、鉄筋コンクリート造、一部鉄骨鉄筋コンクリート造
階数	地上4階、地下1階
工事完了予定年月	平成28年6月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

この評価ソフトは、改正省エネ基準の経過措置が終わる2015年3月までの期間限定で使用できます。

Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency

CASBEE川崎

■使用評価マニュアル: CASBEE川崎2011年版改訂版Ver.2 (BPI/BEI対応) 使用評価ソフト: CASBEE評価ソフト (B-1.0) (BPI/BEI対応) CASBEE-MS-2010000002.0

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)AVL新川崎テクニカルセンター	階数	地上4F、地下1F
建設地	川崎市幸区新川崎149番17、18	構造	S造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	40人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	2,000時間/年
建物用途	事務所、工場(居住域なし)	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年6月 予定	評価の実施日	2015年2月27日
敷地面積	2,000 m ²	作成者	真鍋 展仁
建築面積	639 m ²	確認日	2015年2月27日
延床面積	2,513 m ²	確認者	吉田 徹



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.4

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み 92%

③上記+②以外の 92%

④上記+ 92%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 **Q のスコア = 3.0**

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR 環境負荷低減性 **LR のスコア = 3.5**

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

CASBEE川崎2011 (v.3.1) (BPI/BEI対応) CASBEE-NCb.

(仮称)AVL新川崎テクニカルセンター

14079

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.8
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物資源の保全と創出	外構緑化:川崎市緑化指針に適合している。	2.3/4.3	2.6
2 まちなみ・景観への配慮	植栽により、良好な景観を形成している。		
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	空地を多く設け、高温排熱を伴う設備機器の設置は特いない。		
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	風環境に配慮した見附面積や隣棟間隔を確保している。	0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	3.1
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.3 外皮性能	金属製断熱サンドイッチパネルを採用。	0.4/0.7	3.0
3 3.1 3.1.3 屋光利用設備	ブラインドにより、屋光を制御している。		
3.2 3.2.2 屋光制御			
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物資源の保全と創出	外構緑化:川崎市緑化指針に適合している。	1.1/2.3	2.3
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	空地を多く設け、高温排熱を伴う設備機器の設置は特いない。		
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物の熱負荷抑制	BPI=0.691	3.7/5.0	3.7
2 自然エネルギー利用			
3 設備システムの高効率化	BEI=0.847		
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護		3.3/4.6	3.6
2 非再生性資源の使用量削減	OAフロア、分別が容易なLGS壁工法を採用。		
3 フロン・ハロンの回避	ODP=0、GWP<50の断熱材を使用している。		
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	風環境に配慮した見附面積や隣棟間隔を確保している。	0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.3
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数		0.3/0.5	3.1
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護		2.7/3.9	3.5
2 非再生性資源の使用量削減	LGS壁工法により、内装材の分別に配慮し、OAフロアを採用している。		
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	駐車場及び荷捌用駐車場を確保している。	0.3/0.4	3.3
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	3.0
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物資源の保全と創出	外構緑化:川崎市緑化指針に適合している。	1.1/2.3	2.3
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	空地を多く設け、高温排熱を伴う設備機器の設置は特いない。		
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物の熱負荷抑制	BPI=0.691	3.7/5.0	3.7
2 自然エネルギー利用			
3 設備システムの高効率化	BEI=0.847		
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	風環境に配慮した見附面積や隣棟間隔を確保している。	0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **3.1**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の再利用		0.8/1.4	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物の熱負荷抑制	BPI=0.691	3.7/5.0	3.7
2 自然エネルギー利用			
3 設備システムの高効率化	BEI=0.847		
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階				14079				
配慮項目	G	W	R	H	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
						評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質										3.0
Q1 室内環境							0.33			3.3
1 音環境						3.6	0.15			3.6
1.1 騒音						3.0	0.40			
1 室内騒音レベル						3.0	1.00			
2 設備騒音対策										
1.2 遮音					遮音等級:T-2	4.2	0.40			
1 開口部遮音性能						5.0	0.60			
2 界壁遮音性能						3.0	0.40			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音					床:タイルカーペット、天井:岩綿吸音板を採用している。	4.0	0.20			
2 温熱環境						2.5	0.35			2.5
2.1 室温制御						3.3	0.50			
1 室温						3.0	0.38			
2 負荷変動・追従制御性										
3 外皮性能		W			大まかなゾーニング、冷暖フリーの空調システム。	3.0	0.25			
4 ゾーン別制御性						4.0	0.38			
5 温度・湿度制御										
6 個別制御										
7 時間外空調に対する配慮										
8 監視システム										
2.2 湿度制御						3.0	0.20			
2.3 空調方式						1.0	0.30			
3 光・視環境						3.7	0.25			3.7
3.1 屋光利用						4.2	0.30			
1 屋光率					屋光率:2.5%以上。	5.0	0.60			
2 方位別開口										
3 屋光利用設備		W				3.0	0.40			
3.2 グレア対策						3.0	0.30			
1 照明器具のグレア										
2 屋光制御						3.0	1.00			
3 映り込み対策										
3.3 照度						2.0	0.15			
3.4 照明制御					細かく点滅区分を分けており、スイッチで調整が可能である。	5.0	0.25			
4 空気質環境						3.8	0.25			3.8
4.1 発生源対策						4.0	0.50			
1 化学汚染物質					全面的にF☆☆☆☆の材料を使用している。	4.0	1.00			
2 アスベスト対策										
3 ダニ・カビ等										
4 レジオネラ対策										
4.2 換気						2.6	0.30			
1 換気量						3.0	0.33			
2 自然換気性能						1.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮					給排気口を6m以上離して設置している。	4.0	0.33			
4 給気計画										
4.3 運用管理						5.0	0.20			
1 CO ₂ の監視										
2 喫煙の制御					全館禁煙を実施している。	5.0	1.00			

Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ										
1 広さ・収納性										
2 高度情報通信設備対応										
3 バリアフリー計画										
1.2 心理性・快適性										
1 広さ感・景観										
2 リフレッシュスペース										
3 内装計画										
1.3 維持管理										
1 維持管理に配慮した設計										
2 維持管理用機能の確保										
3 衛生管理業務										
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震										
1 耐震性										
2 免震・制振性能										
2.2 部品・部材の耐用年数										
1 躯体材料の耐用年数				R						
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				R						
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				R						
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				R						
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				R						
6 主要設備機器の更新必要間隔				R						
2.4 信頼性										
1 空調・換気設備										
2 給排水・衛生設備										
3 電気設備										
4 機械・配管支持方法										
5 通信・情報設備										
3 対応性・更新性										
3.1 空間のゆとり										
1 階高のゆとり										
2 空間の形状・自由さ										
3.2 荷重のゆとり										
3.3 設備の更新性										
1 空調配管の更新性										
2 給排水管の更新性										
3 電気配線の更新性										
4 通信配線の更新性										
5 設備機器の更新性										
6 バックアップスペース										
Q3 室外環境(敷地内)										
1 生物環境の保全と創出				G	W					
2 まちなみ・景観への配慮				G						
3 地域性・アメニティへの配慮										
3.1 地域性への配慮、快適性の向上										
3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W					

LR 建築物の環境負荷低減性									3.5				
LR1 エネルギー									3.7				
1 建物の熱負荷抑制				W		H	断熱性能の高い躯体材料を使用している。	5.0	0.10	-	-	5.0	
2 自然エネルギー利用								3.0	0.26			3.0	
2.1 自然エネルギーの直接利用				W		H		3.0	0.50				
2.2 自然エネルギーの変換利用				W		H		3.0	0.50				
3 設備システムの高効率化				W		H	高効率の設備機器を設置している。	4.3	0.38			4.3	
集合住宅以外の評価 (ERRIによる評価)								4.3					
集合住宅の評価								5.0					
4 効率的運用								3.0	0.26			3.0	
4.1 モニタリング				W		H		3.0	0.50				
4.2 運用管理体制				W		H		3.0	0.50				
LR2 資源・マテリアル									0.30				3.5
1 水資源保護				W		R		2.2	0.15			2.2	
1.1 節水								1.0	0.40				
1.2 雨水利用・雑排水等の利用								3.0	0.60				
1 雨水利用システム導入の有無								3.0	0.67				
2 雑排水等利用システム導入の有無								3.0	0.33				
2 非再生性資源の使用量削減								3.8	0.63			3.8	
2.1 材料使用量の削減				W		R		3.0	0.07				
2.2 既存建築躯体等の継続使用				W		R		3.0	0.24				
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				W		R		3.0	0.20				
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用				W		R	エコマーク認定品を3品目採用(床:ビニル床シート、ビニル床タイル、天井:岩綿吸音板)	5.0	0.20				
2.5 持続可能な森林から産出された木材				W		R		2.0	0.05				
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				W		R	・躯体+LGS+PBIにより、内装材の分別が容易である。 ・OAフロアを採用している。	5.0	0.24				
3 汚染物質含有材料の使用回避								3.6	0.22			3.6	
3.1 有害物質を含まない材料の使用								3.0	0.32				
3.2 フロン・ハロンの回避								4.0	0.68				
1 消火剤				W			クリティカルコースにN2消火剤を使用している。	4.0	0.33				
2 発泡剤(断熱材等)				W			ODP=0、GWP<50の断熱材を使用している。	5.0	0.33				
3 冷媒				W				3.0	0.33				
LR3 敷地外環境									0.30				3.3
1 地球温暖化への配慮				W			CO2排出率:92%	3.3	0.33			3.3	
2 地域環境への配慮								3.5	0.33			3.5	
2.1 大気汚染防止							燃焼機器の設置はない。	5.0	0.25				
2.2 温熱環境悪化の改善				G	W	H		3.0	0.50				
2.3 地域インフラへの負荷抑制								3.0	0.25				
1 雨水排水負荷低減						R		3.0	0.25				
2 汚水処理負荷抑制						R		3.0	0.25				
3 交通負荷抑制						R		3.0	0.25				
4 廃棄物処理負荷抑制						R		3.0	0.25				
3 周辺環境への配慮								3.1	0.33			3.1	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止								3.0	0.40				
1 騒音								3.0	1.00				
2 振動								-	-				
3 悪臭								-	-				
3.2 風害・砂塵、日照障害の抑制								3.0	0.40				
1 風害の抑制								3.0	0.70				
2 砂塵の抑制								1.0	-				
3 日照障害の抑制								3.0	0.30				
3.3 光害の抑制								3.7	0.20				
1 昼間照明及び屋内照明のつらねに漏れる光への対策							光害対策ガイドラインのチェックリストの一部を満足している。	4.0	0.70				
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策								3.0	0.30				